

第32回職業リハビリテーション研究・実践発表会

障がい者雇用の戦力化に向けた スキルアッププログラム

当事者同士で創りあげる
ゼロベースからのデジタル人材育成

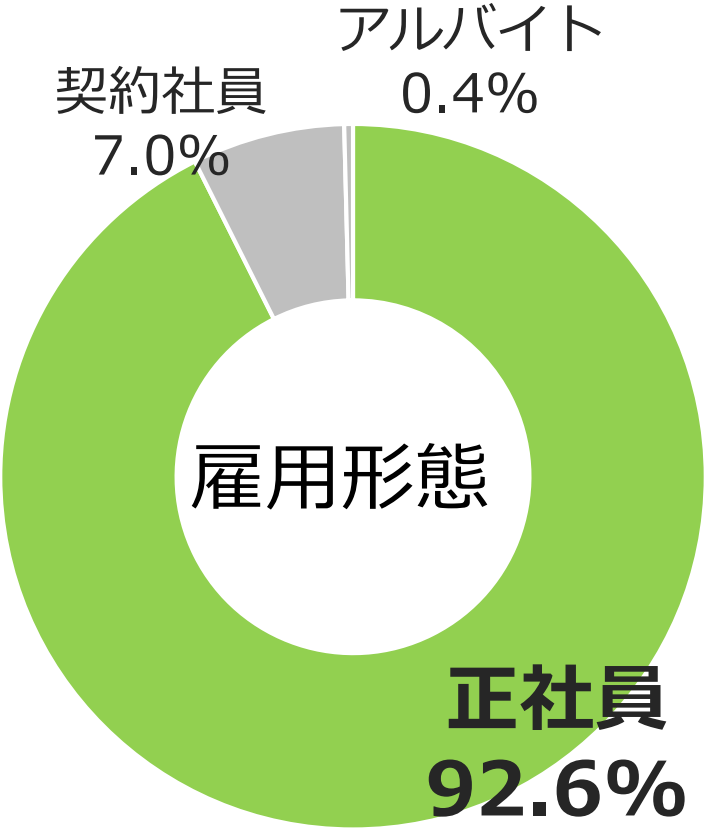
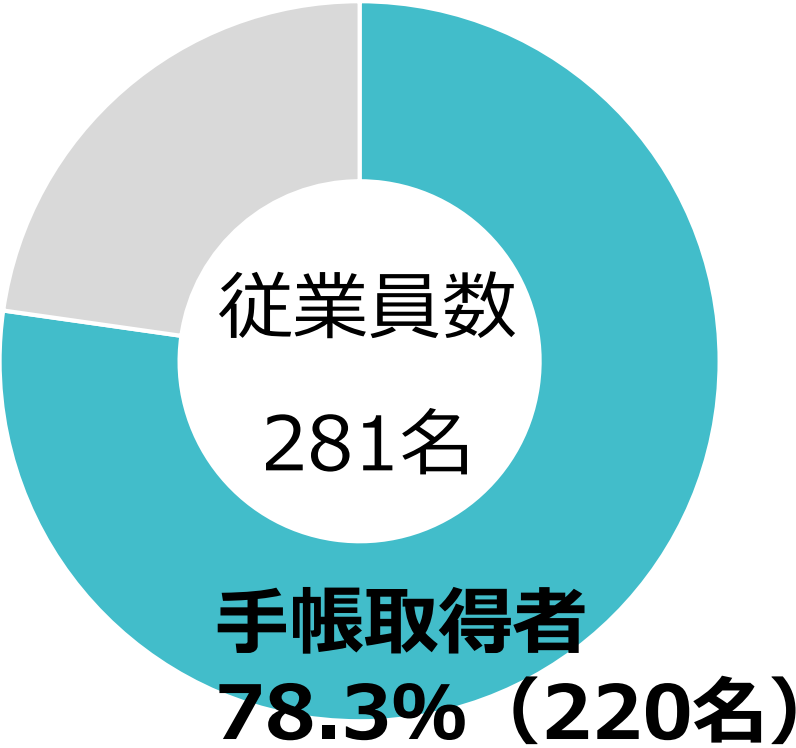
○松尾 明（株式会社マイナビパートナーズ）
佐藤 桃子・文元 竜大・新倉 正之（株式会社マイナビパートナーズ）

本日の発表内容

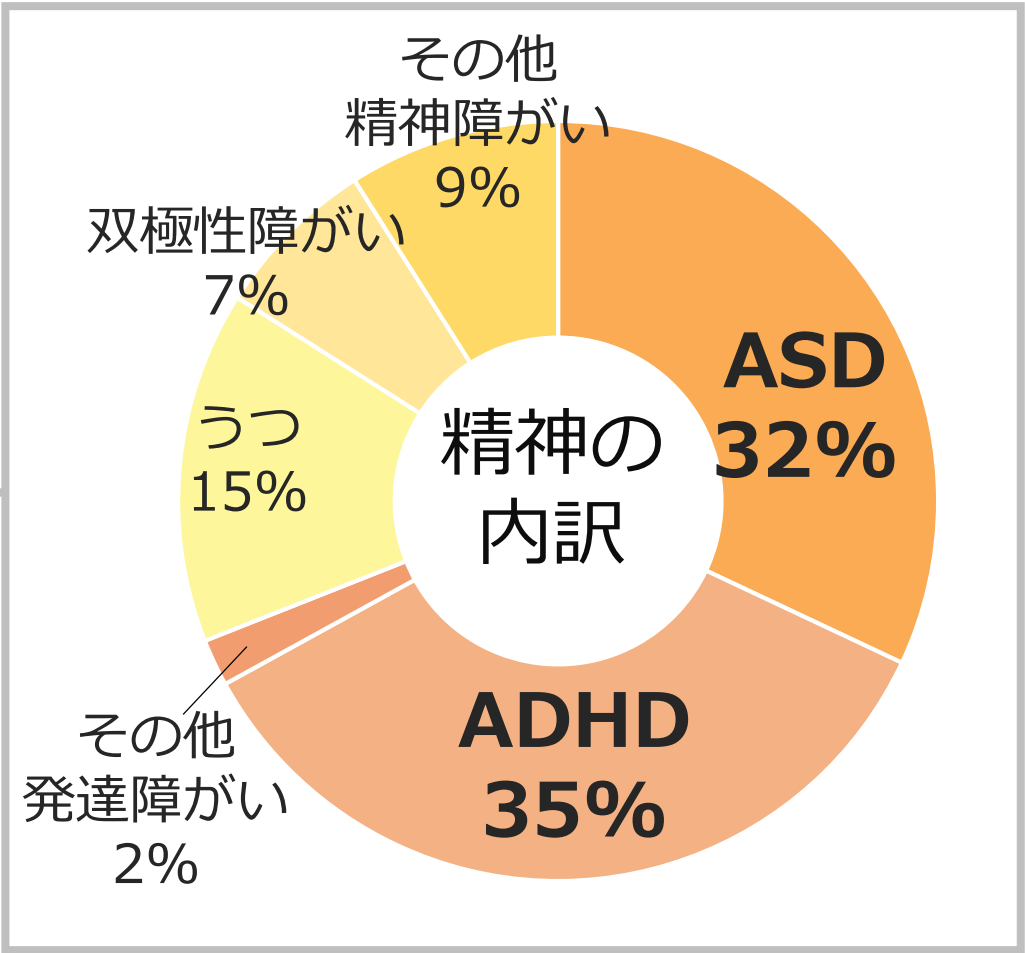
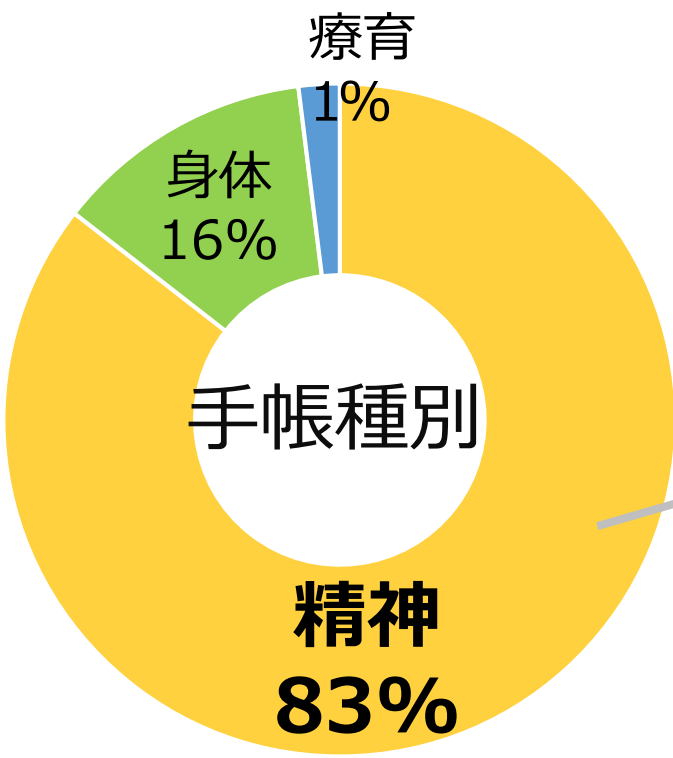
1. 会社概要
2. GAS・Python全国育成プログラムの概要
3. 育成プログラムを経て

マイナビパートナーズについて

- ・ 株式会社マイナビの特例子会社
- ・ 2016年6月1日設立



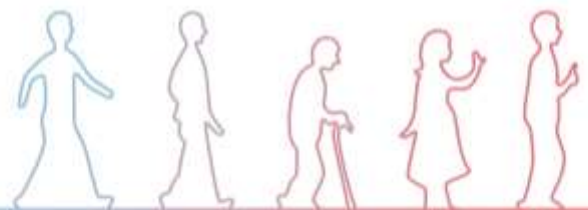
マイナビパートナーズについて



マイナビパートナーズについて



Mission



誰もが活躍するための道を拓き、
未来への道標となる。

人の数だけ違いや個性があり、
違いや個性の数だけ可能性や未来がある。
今、すべての人が個性を発揮できているだろうか。

多様性が語られるこの時代に、誰もが希望を持ち、
自分らしく生きられることがあたり前の世界を目指したい。

そのために、私たちはこれまでの常識の枠にとらわれず、
新しい発想や価値観で、新たなビジネスや仕組みを提案し続けます。

まずは私たちが先頭に立ち、未来が見える世界をつくる。

私たちが切り拓いた道はいつか、
きっと次に続く人たちの道標になる。

2023年10月
会社のMission、Values
を策定

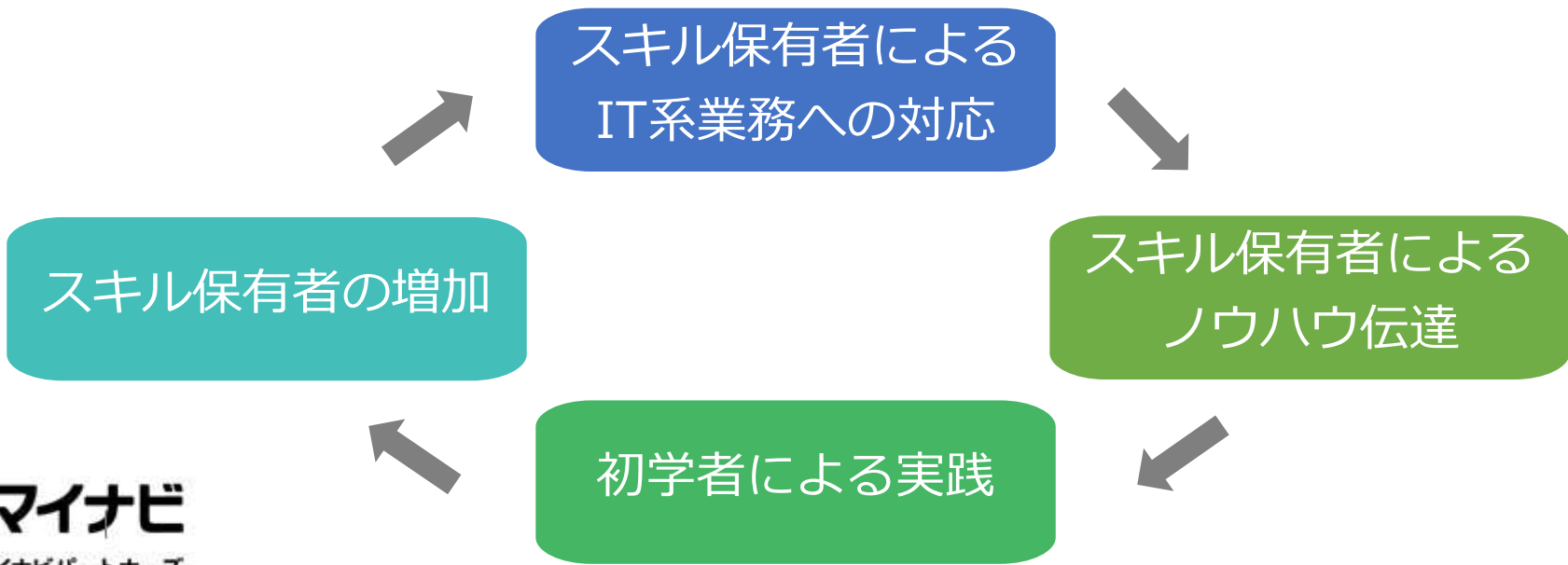
企画の経緯

IT領域の業務ニーズ・市場の拡大

【従来】 IT系業務対応は個々人のスキルに依存



【育成プログラム導入】 属人化の解消による業務拡大の好循環



育成プログラムの概要：コンセプト

- 1. 作業効率化に活用できる実践的な知識を得られる**
 - 使用頻度の高い**Google Apps Script (GAS)**と**Python**を学習対象とする
- 2. スキルや知識に関係なく、誰でも挑戦できる**
 - 課題は**初歩的な内容から**スタート
 - 各自のペースで進められる**自己学習形式**
- 3. 障がい当事者のメンバーが育成の中心になる**
 - 学習課題の採点や質問への対応などの一連の流れを**障がい当事者が実施**

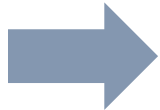
育成プログラムの概要：トレーナーについて

▼主な役割

- ・ 課題の採点、フィードバックコメント作成、質問への回答

▼必要知識・スキル

- ・ GASまたはPythonのいずれかの言語を用いて、事務作業効率化レベルのプログラムを組むことができる
- ・ チャットを中心としたコミュニケーションに対応できる



開始時点でトレーナー5名を選定

(内訳) ITエンジニア経験者3名

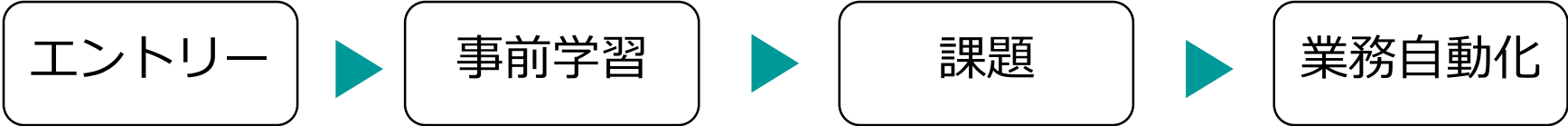
入社後に独学でスキル習得した者2名

育成プログラムの概要：課題について

- ・ 選出したトレーナーを中心に課題作成
- ・ GAS・Pythonそれぞれで独立した内容
（どちらか一方の言語のみでも学習可能）
- ・ いずれも「ベーシック」と「アドバンス」の二部構成

構成	内容
ベーシック	・ プログラミングの考え方 ・ 基本的な言語の書き方
アドバンス	・ 基礎知識を応用する実践的な内容 ・ スクレイピングやアプリケーション操作等

育成プログラムの概要：スケジュール



内容	初学者向け 動画の視聴	各自課題を解く (自己学習)	実際の業務 を自動化
トレーナー のサポート	なし	あり (解答FB・質問対応など)	
期間 (目安)	約1か月	約3か月 ※各自の進捗による	—

育成プログラムの成果

2023年1月のリリース後～2024年9月までの成果

【育成人数】

- ・ プログラム参加者のべ88名（GAS 56名 Python 32名）
- ・ うち全課題修了者41名 ⇒ 業務効率化へ取り組む

【自動化による削減時間】

- ・ 自動化ツール作成数 156件
- ・ 削減時間（手作業の場合と比較） 約16000時間

(補足) 作成した自動化ツールについて

▼育成プログラム参加者が作成した自動化ツールの例

- ・ **WEBスクレイピング**
(所定のサイトから情報を抽出する)
- ・ **Excelやスプレッドシートのデータ加工**
(削除、並び替え、照合など)
- ・ **社内システムへの情報入力やファイル格納**

育成プログラムの成果

【その他の成果】

- ・ プログラム参加者の中から3名がトレーナーへ昇格
➡ サポート体制が充実し、受け入れ規模が拡大した
- ・ よりハイレベルなIT領域業務への挑戦
➡ 上級者のリソースを自動化以外の領域にも割けるようになり、データ分析業務を9件対応

(補足) トレーナー昇格について

▼ トレーナー昇格要件

- ・ 育成プログラムの課題を修了（どちらか一方の言語のみも可）
- ・ 課題に関する質問対応や採点ができる知識がある
- ・ 単独で業務自動化のツール作成ができるスキルがある

実際に昇格した3名の状況

Aさん	もともと独学でV B Aを学び、ツール作成経験あり。 プログラム参加から半年程度でトレーナー昇格。
Bさん	もともと独学でV B Aを学び、ツール作成経験あり。 プログラム参加から1年弱でトレーナー昇格。
Cさん	育成プログラムに参加して初めてプログラミングを学ぶ。 参加から半年程度でトレーナー昇格。

(補足) 運営上のポイント

・プログラムの学習期間について

→完全にゼロベースからでもエントリー可能としているため、
課題が難しく脱落した者、進捗が思わしくない者も一定数いる。
能力・特性・環境を鑑み、学習期間に制限は設けず、個人に任せる。

・参加者の所属部署との連携や進捗管理について

→毎月、各参加者の課題進捗や学習時間をレポートし、放任にはせず、
所属長へ報告している。

・課題に関する質問対応について

→直接口頭で教わりたいというニーズもあるが、
トレーナーのリソースを鑑みて文字でのやりとりに限定している。
(所定のデータベースへ質問を登録し、トレーナーから返信をする。
質問と回答の記録はデータベース上に蓄積され、誰でも閲覧可能)

育成プログラムを経て

- 社内全体のITへの意識向上

連携・情報共有の活発化

初学者でも気軽に参加できるプログラム



成長の可能性が拡大

今後の課題

- ✓ 更なるデジタル人材育成
各部署での人材の偏りを是正するため、
引き続き人材育成を進める
- ✓ ハイレベルなIT領域業務への拡大
データ分析・機械学習・AI活用推進など、
更なる業務拡大を図る

ご清聴ありがとうございました。